

第1学年 社会科学学習指導案

日時 令和5年10月5日(木) 5校時
場所 厚岸町立太田中学校第1学年教室
生徒 第1学年 4名
授業者 福原 彩 教諭

1. 単元名(教材名) / 主題名 第2編世界のさまざまな諸地域
第2章 世界の諸地域 2 ヨーロッパ州
「地域から世界を考えよう」 EU統合の課題

2. 単元(教材) / 主題の目標

○ヨーロッパ州の地域的特色を理解するとともに、これらと関連付けて地域統合の背景や影響を、州という地域の広がりや地域内の結びつきなどに着目して多面的・多角的に考察し表現する。

3. 単元(教材) / 主題について

- ・ 本単元は、B(2)世界の諸地域②ヨーロッパ州で、アジアに続く2番目の州として取り上げる。自然環境や民族・文化、産業、環境問題などの地理的事象を地域統合の視点や世界とのつながりの中で理解を深めていく。ヨーロッパは、スポーツや文化、貿易など経済面においても日本との結びつきが強い。日本と比べて国土面積が狭い国が多く、島国の日本に対し陸続きで国境をなしており、地域の結びつきが強い。地域統合という日本にはあまり馴染まない動きを理解することによって、国家や地域の多様性に気付くことができる単元と考える。
- ・ EU脱退に踏み切ったものの、脱退後低迷を見せるイギリスを本単元で中心として取り上げる。イギリスはEUに再加盟するべきかという対立軸を単元課題として設定し、単元学習全体の見通しを持ちながら自分の考えを構築していくことで生徒の学習意欲につなげたい。
- ・ 太田中学校は、自ら学び考える授業の創造を研究主題とし、主体的・対話的で深い学びを通して実現を図ろうという3年計画の校内研究をスタートさせた。社会科では、単元を貫く学習課題を生徒と共に設定し見通しを持たせながら学習を進めていくことによって主体的な学びにつなげている。また、既習事項を根拠にしたり、他者の考えと比較したりする対話的な学びによって、自分の考えを再構築することを通して深い学びに繋げていきたい。
- ・ 1年生4名は、課題に対して柔軟な発想のもとそれぞれの学び方で追究しようという姿勢がみられる。一方で、それを自信づける知識や根拠となる情報を収集する能力が不足しており、説得力をもたない表現に終始することもある。それに伴って、発表場面では、発言を譲り合ったり声が小さかったりと自信がない姿もみられる。日常の授業でも、根拠のある情報収集の力を徐々につけられるよう細やかな指導を重ねるとともに、自分の考えを発表する場面を多く設けるようにしている。本時は単元のまとめとして、これまで学習してきたことをいかして、自分の考えを根拠を持って堂々と表現できるように支援していきたい。

4. 単元（教材）／主題の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>○ヨーロッパ州について、各国の結び付きが強まった理由や歴史的背景、州や EU が抱える課題などを通して、地域的特色を大観し理解している。</p> <p>○ヨーロッパ州について、地図帳や諸資料を活用して州の地域的特色を具体的にとらえ、習得した知識を整理して地図などを使ってまとめる技能を身に付けている。</p>	<p>○ヨーロッパ州の地域的特色や課題について、その要因や影響をヨーロッパ州の広がりや州内の各国の結びつきなどに着目して、諸資料から読み取れることと関連付けて多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。</p>	<p>○ヨーロッパ州について、国家間の結びつき着目して、その利点や課題について整理し、今後の EU の在り方について主体的に追究しようとしている。</p>

5. 指導と評価の計画（全 8 時間）

時数	ねらい・学習内容 学習活動，など	評価規準		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	○ヨーロッパ州の自然環境や文化を大観し、ヨーロッパ州を構成する主な国々の位置と名称、その特色を理解する。	ヨーロッパ州の位置・気候・言語・宗教などについて、地図帳などを利用して特色を読み取る技能を身に付け、主な自然地名や国々の位置と名称、地域区分などを理解している。		ヨーロッパの気候・言語・宗教などの特色を、資料を用いて主体的に追究しようとしている。
1	○イギリスの EU 脱退に関する諸資料を読みとり、今後の EU はどうなっていくかに関心を持ち単元課題を設定する。 ○EU の成り立ちとその拡大について理解し、EU 加盟国における生活の変化と地域格差の現状とその課題について考え、表現できる。	EU の設立の背景や特色について、グラフや分布図から適切に読み取る技能を身に付け、EU の利点や課題を理解している。		EU の成立から今日までの流れや EU 加盟の利点と課題について資料を用いて主体的に追究しようとしている。
単元課題：イギリスは EU に再加盟するべきだろうか。				
1	○EU の工業について、資源分布との関係や地域格差について理解し工業の発展と外国人労働者の増加の関係について考え、表現できる。		工業発展の経緯や現状を踏まえ、ヨーロッパの工業の利点と課題について、労働者の移動と賃金格差に着目して考察し、その内容を表現している。	ヨーロッパの工業の特色や EU 加盟の利点と課題について、資料を用いて主体的に追究しようとしている。
1	○ヨーロッパの農業について、自然環境との関係から農業生産の特色や食文化、EU との関わりについて考え、表現できる。		ヨーロッパの農業について、気候と作物の関係に着目して特色を考察し、共通農業政策などにおける EU 加盟の利点と課題を考察し表現している。	ヨーロッパの農業の特色や EU 加盟の利点と課題について、資料を用いて主体的に追究しようとしている。
1	○ヨーロッパの国境を超える環境問題と、それに対する国の取り組みや EU としての取り組みを理解する。	ヨーロッパの環境問題と解決に向けた各国や EU の取り組みについて調べ理解している。		ヨーロッパの環境問題と解決に向けた各国や EU の取り組みについて、主体的に追究しようとしている。
1	○EU に加盟する利点と課題を自分なりに整理し、表現できる。		既習事項を踏まえて EU に加盟する利点と課題整理し、表現することができる。	EU 加盟の利点と課題を、既習事項を踏まえて主体的に追究しようとしている。

1 本時	<p>○国境を越えた「統合の流れ」が拡大している一方で、拡大から生じた課題、国内に生じた独立の動き、移民や難民の流入に関わる課題などについて理解する。</p> <p>○イギリスを例にEU統合から生じている課題やその背景について考え、表現できる。</p>			
1	<p>○EUの将来について、前時の論点を整理して、考察する。</p>		<p>EU統合の利点と課題について、既習事項と関連付けて考察し自分の考えを表現している。</p>	<p>他者との意見交流を通して、多面的・多角的な視点で単元課題について主体的に追究し、自分の考えを再構築することができる。</p>

6.本時について

(1) 町研研究主題との関連

【研究主題】地域・社会に生きてはたらく力を育む厚岸町の教育
～育成を目指す資質・能力を明確にした授業改善～



【学力第1部会 研究テーマ】

『自ら学び、考える』授業の創造
～「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて～



【本時でねらいとする資質・能力について】

- ・ イギリスのEU再加盟に賛成か反対かというテーマについて、EU統合の利点と課題を既習事項と関連付けて、根拠のある情報のもとに自分の考えをまとめることができる。
- ・ 他者との意見交流を通して、多面的・多角的な視点で自分の考えを再構築することができる。

(2) 本時の目標

- ・ EU統合の利点と課題について、既習事項と関連付けて自分の考えを表現することができる。【思考・判断・表現】
- ・ 他者との意見交流を通して、多面的・多角的な視点で単元課題について主体的に追究し、自分の考えを再構築することができる。【主体的に学習に取り組む態度】

(3) 展開

過程	○学習活動	●教師の働きかけ	☆評価規準（評価方法） ・手立て
導入 （5分）	①これまでの学習を振り返り本時の学習課題を確認する。	●イギリスの国民投票に関する諸資料を用いて、学習課題につなげる。	
学習課題：イギリスはEUに再加盟するべきだろうか。			
展開 （40分）	<p>②イギリス国民になったつもりで、自分の考えをまとめる。（10分）</p> <p>③自分の考えと根拠を発表し、質問や意見交流する。（15分）</p> <p>④話し合いを踏まえて単元を貫く学習課題に対する最終的な立場と理由をまとめる。（10分）</p> <p>⑤投票箱に投票し、本学級における賛成反対の票数を確認する。（2分）</p> <p>⑥最終的な自分の考えを交流する。（3分）</p>	<p>●既習事項を踏まえてEU加盟の利点と課題を整理しながら、賛成・反対かの自分の考えをまとめさせる。その際、賛成・反対が2人ずつになるように分ける。</p> <p>●既習事項である農業・工業の視点も踏まえさせる。</p> <p>●発言は、きちんとした論点で、明確な根拠のもとに行うように説明する。</p> <p>●相手の考えを認めながら相手の主張についての疑問点やさらに聞いてみたいところなどを交流させる。</p> <p>●過去に別の生徒が同じ課題に取り組んで出てきた考えも必要に応じて提示する。</p> <p>●全体の考えを共有したうえで、もう一度全体に課題を問いかける。</p> <p>●先ほどまで決めていた立場にはこだわらず広く課題をとらえさせる。</p> <p>●議論を通して結果がどうなったか予想させながら結果を開示する。</p> <p>●自分の考えの軌跡を、根拠を持って伝えられるようにする。</p>	<p>・利点と課題両方を踏まえて考えることができるように、机間指導して促す。</p> <p>☆EU統合の利点と課題について、既習事項と関連付けて、根拠のある情報のもとに自分の考えをまとめることができる。【思・判・表】（ロイロノート・発言）</p> <p>☆他者との意見交流を通して、多面的・多角的な視点で単元課題について主体的に追究し、自分の考えを再構築することができる。【主体的に学習に取り組む態度】（ロイロノート・発言）</p>
まとめ （5分）	<p>⑦他の国の立場からもEU加入の可否について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フランスやドイツは同じように脱退する可能性があるかも。 ・東欧の国はEUに入っていた方が発展できる。 <p>⑧それぞれの国の立場によって考えが異なるため様々な国の立場からEUをとらえる必要があることに気付く。</p>	<p>●イギリスに焦点を置いて考えてきたが、他の国の立場だったらどうだろうと投げかける。</p> <p>●次時の課題として、今日学習したことを踏まえてEUは今後どうあるべきかについて考えることを伝える。</p>	

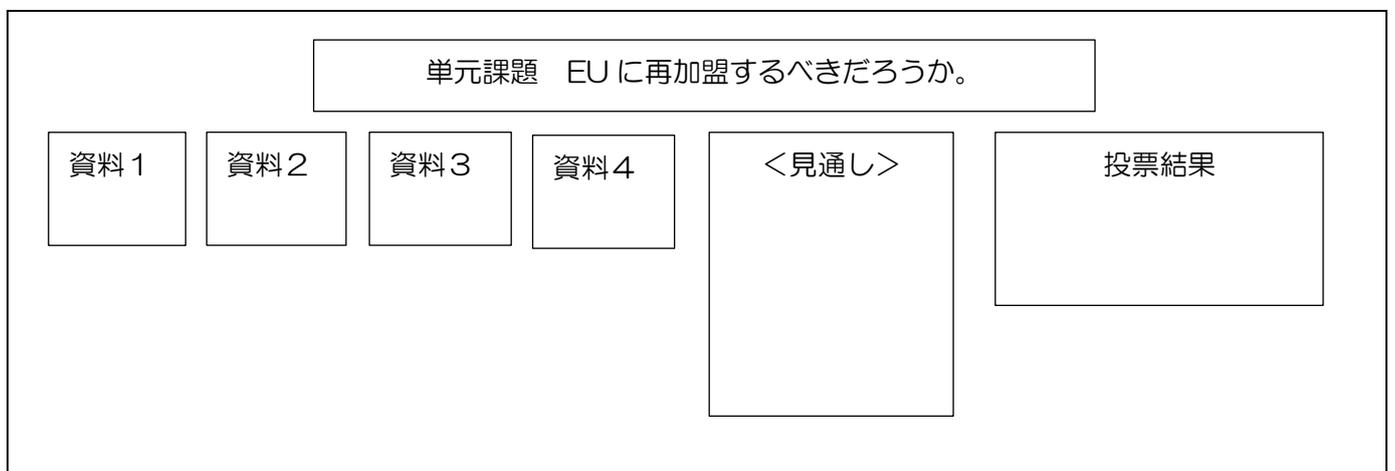
○生徒から出て来ると予想する意見

加盟に賛成	加盟に反対
<ul style="list-style-type: none"> 平和が続く。 経済発展してアメリカや日本とも対等に競争ができる。 パスポートなしで国を超えて人・物・物資が自由に行き来することができる。 共通通貨（ユーロ）によって国をまたいだ買い物ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 他の国と足並みをそろえることによって、伝統的なイギリスの良さが失われてしまう。 景気の良いときも悪いときもみんな同じ動きをしてしまう。

○農業・工業の視点で考えた時に予想する意見。

	加盟に賛成	加盟に反対
農家	<ul style="list-style-type: none"> 域内の関税がかかってしまうため、他国へ輸出する場合自国の農作物の値段が高くなる。 	<ul style="list-style-type: none"> 農作物の生産性が高いイギリスにとっては、他の国の支援の為に国のお金が使われているのは無駄。（共通農業政策）
工場労働者	<p>【雇う側】</p> <ul style="list-style-type: none"> どこの国にも会社が作れる。 安く労働力を得ることができる。 輸出入に関税がかからないので輸出入がしやすい。 物の流入手続きが容易。手続きが複雑になると中小企業が多いイギリスでは生き残れない可能性。 <p>【働く側】</p> <ul style="list-style-type: none"> お給料の高い持ち場で働くことができる。（移民に労働条件の悪いところをまかせられる） 	<p>【どちら側も】</p> <ul style="list-style-type: none"> 移民に自分たちの職が奪われる。 外国人労働者とともに働くトラブル。 病院もいっぱい治療を受けられない。 充実した福祉や公共サービスを移民にも与えなければならない。

○本時の板書計画

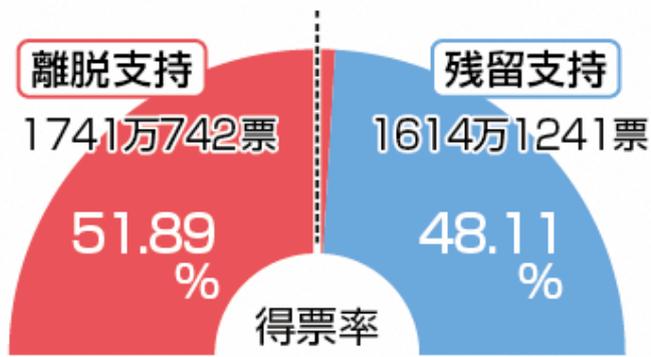


○導入時に使う資料



英国国民投票の結果

投票率 72.2%



(首席集計官の発表などによる)

